

どの お殿さまが見た狂言

さとのねセタ
フェスティバル
参加企画

三田藩主も楽しんだ日本の伝統芸能

プログラム

大蔵流狂言
すえひろがり
末広がり

出演 善竹忠重(重要無形文化財総合指定保事者)ほか
ある果報者(お金持ち)が家来の太郎冠者にお客へのおみやげにする「末広がり」を買ってくるよう命じます。でもこの太郎冠者、末広がりがどんなものか知らなくて…

大蔵流狂言
ちどり
千鳥

出演 尾鍋智史(三田市在住)ほか
主人から酒を一樽求めて来いと言いつけられた太郎冠者しかし後払いの支払いをしていないので、酒屋はしぶって売ってくれません。太郎冠者の必死の工夫が始まります…!



上演前に解説があつて
安心して楽しめます

文政2年(1819年)正月26日
時の十代三田藩主・九鬼隆国(たかくに)は
祖父の九鬼隆邑(たかむら)の
90歳のお祝いに
三田陣屋(三田城)で2日間にわたって
盛大に能と狂言の会をひらき
自分も演じて楽しみました

約200年前の三田藩のおめでたい会
その時の記録にもとづいて

三田ゆがりの狂言を上演します

日本伝統のコミカルな喜劇「狂言」
ちょっとだけ
お殿様気分楽しんでみませんか?

©2014 kyoran/能楽イラスト+++

平成28年7月3日(日) 14時開演(13時30分開場)

会場/三田市総合文化センター(郷の音ホール)小ホール

全自由席 一般 前売 1,000円 / 当日 1,500円
学生 前売 700円 / 当日 1,000円 (小学生~高校生)

※前売完売の場合、当日券の販売は致しません ※学生券での入場時に学生証の提示をお願いすることがございます

チケット取り扱い

郷の音ホールチケットセンター 079-559-8101

Peatix(オンラインチケット) <http://otonosama-kyogen.peatix.com>



兵庫県三田市天神1丁目3番1号
●三田駅から徒歩12分 ●駐車場400台

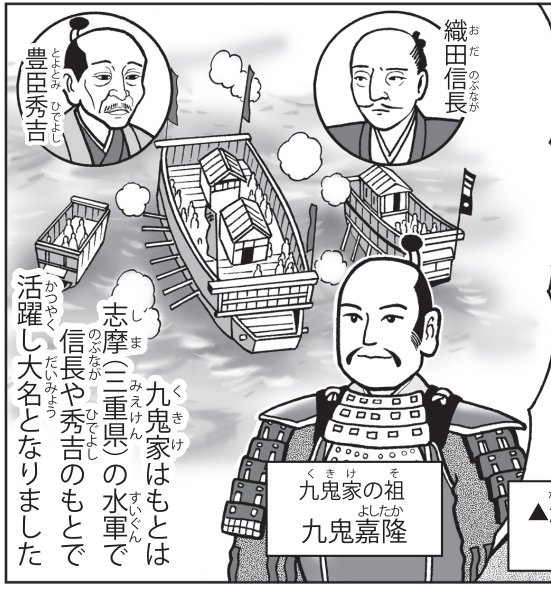
主催・お問い合わせ/能楽と郷土を知る会 090-3969-1608(朝原) ウェブサイト <http://nohgaku-kyodo.xyz>

共催/三田市総合文化センター郷の音ホール 後援/三田市 三田市教育委員会 三田市文化協会 ハニーFM サンテレビジョン 神戸新聞社

三田のお殿さまと能・狂言

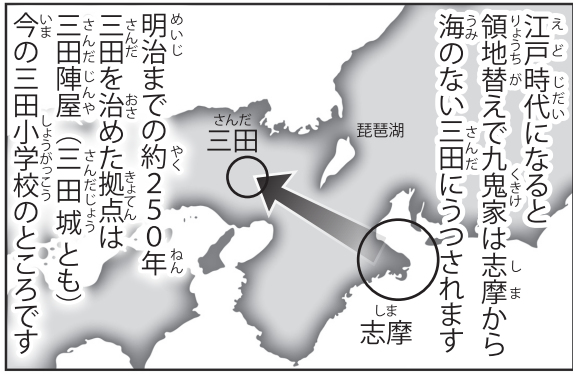
原案 朝原広基
マンガ 富士山みえる

今の兵庫県三田市のもととなった三田藩は江戸時代を通して九鬼家が藩主として治めていました



▲解説 三田藩十代藩主 九鬼隆国

九鬼家のもとには志摩(三重県)の水軍で信長や秀吉のもとで活躍し大名となりました



江戸時代になると領地替えて九鬼家は志摩から海のない三田にうつされます

明治までの約250年三田を治めた拠点は三田陣屋(三田城とも)今の三田小学校のところです



そんな中登場したのが私の先祖さま八代九鬼隆昌

綾部藩(京都府綾部市)から養子でいらしたのですが文政2年(1819)にはなんと御年93歳!

もう隠居されていますが柔術が得意なお元氣なお方です



しかし、三田のお殿さまには早死にする人も多かったのです江戸時代、跡継ぎのいない家は幕府からお取り潰し!

九鬼家では三代隆律から八代まで代々養子を迎えることでなんとか続いてきました



藩主が90歳を迎えるのは三田藩では初めてのことこんなめでたいことはない!

城下のもものたちもお祖父さまの長寿を祝つてくれ! 特別に餅もふるまうぞ!



武家が祝いのお祝いの時にするもの

能と狂言

儀式の時に演じられる音楽劇なので「式楽」といいます



お祝いの会場は三田陣屋でも一番広い部屋「書院」

二日続きで盛大に催しました

私・隆国も出演者に混じってお祖父さまのご長寿と三田藩の繁栄を祈りました



三田は昭和50年代から大阪や神戸のベッドタウンとして急速に開発・発展しました

現在ではニュータウンの住民が人口の大半です

三田の郷土文化の根っことして九鬼家のこと九鬼家のお殿さまたちが愛した能や狂言のことが今の三田にもっと広まったらステキですね

文政2年(1819)の陰暦90歳祝賀能は2日間催されましたが、1日目の正月26日の演目だけが伝わっています。能が「難波」(八島)《杜若》《船弁慶》《融》、狂言が《未広かり》《鬼真》《竹生島詣》《千鳥》です。隆国は能《杜若》と《融》ではシテ(主役)、能《八島》では小鼓を打っており、かなり積極的に能の上演に参加しています。